

## 日本語授業のハイブリッド化

(NPO法人)IWC市民の会 JSL I担当理事 角田富美子 (東4)

### 1、 IWC JSL1クラスの概要

品川区教育委員会教育総合支援センターから委託を受けて、品川区立小中学校の外国にルーツを持つ生徒に日本語授業を行っている。小学生については、保護者が生徒を各学校からセンターの一学校に送迎する。そこで計20名ほどの初級日本語レベルの生徒に対して、レベル別に複数の少人数対面クラスで日常会話・初級文法・ひらがな・カタカナの授業を原則90分×75日間行っている。コロナ禍以降、試行を経て、保護者が送迎できない生徒に対して、各学校と日本語教師・日本語学習支援者(以下「日本語スタッフ」)の自宅を結んでオンライン授業も開始した。(コロナ禍以前は週6日、コロナ禍以後は週2日)

### 2、 問題点: 以下の問題点から上記システムの維持が難しいと感じている。

- ・現在仕事の都合等で保護者がセンター校に送迎できず、日本語授業を受けられない小学生も多い。
- ・引退の近い高齢の日本語スタッフも多い。
- ・最低賃金も補償できていない状況なので、若い世代の日本語スタッフが定着しにくい。
- ・コロナ禍に対面とオンライン授業が別々に行われ、日本語スタッフ不足が加速した。

### 3、 対策: これらの問題の一解決策としてハイブリッド型授業を試行する。

### 4、 対策の目的: より多くの外国にルーツを持つ生徒達が安定したシステムの中でより良い日本語教育を受けられるように、

- ・少人数の質の高い日本語スタッフがより多くの生徒に教えることによって、授業の質を向上させる。
- ・全体のコストを下げ、浮いたコストでより高い報酬を日本語スタッフに支給し、若い世代を確保する。

### 5、 ハイブリッド型 JSL1 月例ミーティングと 日本語授業の試行

(1) 以前の通常のみーティング例: ① 7月14日(休)通常対面ミーティング: JSL1 事務室兼職員室、2時間、参加者9名、

② 7月15日(休)通常オンラインミーティング: Zoom、2時間、参加者5名。(全13名、責任者は14日と15日両日に参加。)

### (2) ハイブリッド型 JSL1 月例ミーティングの試行

#### I. 9月22日(休) ハイブリッド型月例ミーティングの試行:

9月17日(土) IWC 月例会議で理事や責任者に、日本語スタッフにはメールで連絡、各学校関係者にも相談後、

- ① 使用機器: 責任者のノートパソコン、使用アプリ: Zoom
- ② 事務室兼職員室対面参加者7名、オンライン1名、欠席者4名。(全日本語スタッフ12名、1名介護でお休み中。)
- ③ 試行結果、その分析と課題
  - ・特に対面、オンラインと比べて機能的には不都合はなかった。
  - ・対面の日本語スタッフとオンラインの日本語スタッフが今まで取れなかったコミュニケーションを取れるようになった。
  - ・責任者が月2回ではなく、1度の参加で済むようになった。
  - ・個人持ちの機器は持ち運びが大変なので、NPO 備品の PC やタブレットの必要性を感じた。

#### II. 10月20日(休) ハイブリッド型月例ミーティングの試行:

- ① 使用機器: 責任者のスマホ(ミーティング直前に1名の参加希望があったため)、使用アプリ: Zoom
- ② 対面参加者7名、オンライン1名、欠席者4名。(全日本語スタッフ12名)
- ③ 試行結果、その分析と課題 ・スマホは、必要場所に移動が簡単で音声もOKで話し合いには問題ないが、資料の画面が小さ過ぎる。

### (3) ハイブリッド型日本語授業の試行 (プログラム作成)

10月15日(金) ハイブリッド型授業の試行: ①時間: 45分、②担当日本語スタッフA(責任者): 1名

- ③ 生徒4名(対面: フィリピン出身中1女子、中国出身小6男子、オンライン: ネパール出身長5男子、中国出身小2女子)
- ④ 使用機器: 教師はノートパソコン、オンライン生徒は Ipad(+Zoom ホワイトボード用にタッチペン)。使用アプリ: Zoom

⑤ 授業場所：(事前のチェックでは OK だったが、)当日 Wifi が予定の対面授業で使う教室では弱いので職員室で授業。

⑥ 事前準備： 9 月 22 日(水)ミーティングで日本語スタッフに相談。直後各生徒の学校に了承を得る。

プリントを pdf データと紙ベースで用意。テキスト冊子も使用。

⑦ 指導内容：ひらがなとカタカナのまとめ(単語と文章の読み書き、ディクテーションを含む。)

⑧ 試行結果、その分析・課題(・対策)

- ・対面生徒・日本語スタッフとオンライン生徒は久しぶりで、コミュニケーションギャップもありつつ、良いコミュニケーションが取れた。
- ・見学者から対面生徒のオンライン生徒の画面のデータのカンニングの報告があった。(→ データ提示方法変更。)
- ・写真撮影や見学の年配の対面日本語スタッフは、ハイブリッド型授業は負担が多すぎると感じていた。
- ・ハイブリッド授業による 20%のオンライン日本語スタッフの人数と経費削減を単純試算。日本語スタッフ時給増加の可能性を感じた。

## 7、その後 2021 年 11 月から 2022 年 2 月の経緯 (課題、対策、協働・連携)

- ・9~12 月センター校対面日本語クラスでひらがなの遅れた小二男子を取り出し、登校が大変な年配日本語スタッフ B の自宅 PC とのオンラインクラスを設定。(1月以降は、他のクラス生徒卒業のため通常の所属学校と日本語スタッフ自宅 PC のオンラインクラスに変更。)
- ・12 月 24 日 スタッフで Wifi の位置を変更し、(通常学校教室をパーティションで分けた)2 クラス分のスペースで授業できるようにした。
- ・1 月 22 日(土)IWC 事務局と全4クラス分が届く外付けの Wifi について話し合ったが、古い公立学校施設なので課題が多い。
- ・1 月 21 日(金)に、10/15 と同じクラスでハイブリッド型授業予定だったが、予定より早くこのクラスから卒業生が二人出て、別の対面生徒がこのオンラインクラスの方へ変更移動し、学習レベル的に一緒に授業が難しくなった。また 1 月から教室を飛び出す発達障害の疑いのある初任者の小 1 男子の別の一人対面クラスが開始したこともあり、このハイブリッド型授業を断念した。
- ・1 月下旬からコロナ感染状況悪化への不安から対面授業を欠席する 2 名の女子生徒のため、センター校日本語スタッフ C/D の Ipad と所属学校を結ぶハイブリッド型クラスと、教師 E が IWC デスクトップ PC を使ったハイブリッド型クラス、ニクラスでの授業を相談・検討中。新たに備品として IWC デスクトップ用ヘッドホンを購入予定。ウェブカメラは事務員から寄付があった。

## 8、今後の予定

- ・2 月 19 日(土)の IWC 月例会議で、教育委員会(通常年 1~2 回センター校見学)や IWC 理事に上記ハイブリッド型クラスと、通常オンライン授業クラス(今まで教育委員会や IWC の見学なし)の見学を提案、了承を得て実施予定。(課題共有)
- ・今回上記のハイブリッド型クラスが実現しても、クラス数・生徒数・日本語スタッフ数に変更はないが、来年度の 20%のペースアップと授業日数 2 日→3 日への増加を組み合わせ、JSL1 日本語教室が IWC 事務局経費 25%を負担して、日本語スタッフ 1 時間当たり活動費 ¥500→¥1,000(+対面日本語スタッフ平均交通費を ¥500)にする試算を 2 月 19 日 IWC 月例会議に提案予定。(分析)
- ・3 月 2 日(水)に、センター校の IWC デスクトップ PC を使って、責任者の自宅 PC とセンター校対面日本語スタッフと自宅オンラインスタッフ間で、上記課題等について JSL1 月例ミーティングの予定。(課題共有、対話、対策)

## 9、今後の課題と対策 (分析、課題、連携・協働)

- ・生徒達のハイブリッド型クラスの学習レベルや学習可能曜日・時間、相性などを鑑みると、実際に恣意的にハイブリッド型クラスを作ることはなかなか難しかった。(分析、課題)
- ・しかし、思惑とは少し外れたところで、コロナ感染状況などの社会的状況下、生徒や日本語スタッフの変化から必然的に通常の対面授業からハイブリッド型授業を求められることになった。常に状況は変化しており、それに伴って、対面授業、オンライン授業、ハイブリッド型授業の臨機応変な組み合わせが必要だ。(分析、課題、連携・協働)
- ・機器に強い日本語スタッフの実際のハイブリッド型授業を通して、機器の苦手な日本語スタッフにも浸透させたい。(連携・協働)
- ・日本語スタッフの時給の増加を通して日本語スタッフとその授業日数の増加を促したい。(2 月から新日本語スタッフ 1 名の実習開始)